

平成26年4月 定例委員会々議録

1 日 時 平成26年4月28日(月) 午後1時30分～

2 開催場所 会議室301

3 出席委員の氏名

委員長	齋藤和夫	委員長職務代理者	黒川優子
委員	山崎克弥	委員	中野信男
委員	秦久美子	教育長	上原洋一

4 欠席委員の氏名 なし

5 説明のため出席した職員

教育次長	金子彰男	主 幹	村山幸一
学校教育課長	山田公一	子育て支援課長	伊藤謙治
社会教育課長	堀克彦		

6 本委員会書記

学校教育課 猪股 加代子

7 傍聴人

三條新聞社

8 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄付報告
- (4) 共催・後援の教育長専決報告

協議題

- (1) 新規後援申請

議 案

- 議案第 24 号 燕市小中学校校務支援システム選定委員会設置要綱の制定について
議案第 25 号 燕市教育委員会教育長事務委任規程の一部改正について
議案第 26 号 燕市立学校管理運営に関する規則の一部改正について
議案第 27 号 燕市学校支援地域支援本部地域コーディネーターの委嘱について
議案第 28 号 平成 26 年度燕市立幼稚園、こども園、小学校及び中学校における学校
評議員の委嘱について

そ の 他

- (1) 燕市男女共同参画推進委員会委員の委嘱について
- (2) 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会（長野大会）の出席について

会議録 別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後 2 時

2. 会議録署名委員の指名 黒 川 優 子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

《各課長が報告》

(2) 教育長報告

〈上原洋一教育長が報告〉

1 学校数・学籍

● 平成 26 年度の学校・学級規模

○ 保育園は公立 18 園に 1,726 人。私立保育園 6 園 622 人を加え 24 園 2,348 人。

○ 幼稚園 3 園 107 人。私立 1 園 123 人を加え 4 園 230 人

○ こども園 1 園 99 人。

○ 小学校 15 校、特別支援学級含む学級数は 186 学級、児童数は 4,239 人

○ 中学校 5 校 75 学級、生徒数は 2,150 人

○ 燕市内幼稚園・保育園・こども園、小学校・中学校、29 園・20 校すべての園児・児童・生徒合計 9,066 人でスタート。

● 福島の子どもたち

○ 市内小学校に入学した 1 年生は 1 人。在籍する小学生は 14 人（燕東小 3 人、燕西小 1 人、燕北小 7 人、吉田南小 3 人）、中学生 5 人（燕中 1 人、吉田中 4 人）

○ 幼稚園、保育園には 4 人が通園する（燕北幼稚園 1 人、三方崎 1 人、きららおひさま 2 人）

2 平成 26 年度の方針

○ 平成 26 年度は、5 年間計画である燕市学校教育基本計画の 4 年目。重点事項として、**燕市らしい特色のある教育の推進、確かな学力の向上、健やかな体の育成、学校・家庭・地域の連携強化**の 4 点を昨年度から継続するとともに、今年度は、**質の高い教育を支える教育環境整備**を加えた 5 点について 4 月 11 日開催した拡大校長会で説明した。

(1) 燕市らしい特色のある教育の推進

・ 燕長善タイム

・ 燕キャプテンミーティング

(2) 確かな学力の向上、

- ・ 中学学力向上対策

(3) 健やかな体の育成

- ・ 体力向上サポート事業

(4) 学校・家庭・地域の連携強化

- ・ 地域に根ざす学校応援団事業

(5) 質の高い教育を支える教育環境整備

- ・ 学校図書館充実事業
- ・ 教職員用パソコンの入替及び校務支援システムの導入

*** 子育て支援課、社会教育課関係**

- ・ よしだ保育園、わか竹児童クラブ、病児・病後児保育
- ・ 文化会館改修、吉田総合体育館・吉田武道館耐震等改修

3 全県教育長会議 4月22日(火)自治会館

○ 高井盛雄教育長からは、「『ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり』を目指し新潟県教育振興基本計画を策定した」と挨拶の後、本年度の重点方針5点について説明があった。

○ 1点目が、「学ぶ意欲を高め、確かな学力を育成する教育の推進について」。中学校数学の学力向上、家庭学習が課題。市町村教委においては全国学力・学習状況調査の結果分析を詳細に行い、課題把握・解決に向けきめ細かな学力向上対策を講ずること。

○ 2点目が、「いじめ防止対策の推進について」。「いじめ防止対策推進法」に基づく体制整備、いじめを見逃さない、許さない意識の醸成、いじめ見逃しゼロ県民運動への協力、不登校の未然防止と適切な対応、スマートフォン等を介した問題行動の未然防止等に取り組むこと。

○ 3点目が、「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進について」。全校でキャリア教育を推進する体制づくり、ふるさとへの愛着や誇りを育む教育活動の充実、家庭・地域・産業界と連携した取組の推進に取り組むこと。

○ 4点目が、「児童生徒の安全確保と防災教育について」。安心・安全な環境づくり、県防災教育プログラムを活用した防災教育の推進に取り組むこと。

○ 5点目が、「高校改革及び入学者選抜方法の改善について」。平成27年度から実施する新しい入学者選抜方法は通知済み。今後は中高連携進路指導協議会で詳細を説明した上で、10月中に選抜要項を発表予定。

- 引き続き、各課長より施策概要の説明があった。主だったものを紹介する。
- 総務課より。「ハラスメントの防止及び対応に関する指針」を策定。
- 財務課より。平成 26 年 4 月 1 日現在、本県公立小中学校の耐震化率 93.5%。
- 義務教育課より。平成 24 年度暴力行為発生件数、小学校 57 件、中学校 654 件。小中ともに発生校数増加。小学校では加害児童数増加。中学校では警察等への措置数増加。
- 特別支援学校高等部を全県の視野から計画的に整備を推進する。
- 学力向上推進システム活用事業として、学力診断問題の学校への配信、WEB 配信集計システムの過去問題検索機能導入等の改善を行う。
- 高校教育課より。文科省事業「外部専門機関と連携した英語担当教員の指導力向上事業」を村上高校と三条高校で実施。三条高校の協力校は吉田小、吉田中。
- 生涯学習推進課より。不登校児童生徒体験活動「はつらつ体験塾」が不登校解消に効果あり。
- 文化行政課より。県立近代美術館で「法隆寺 祈りとかたち」、県立万代島美術館で「伊藤若冲と京の美術」など開催。
- 保健体育課より。本県児童生徒の体位は全国平均を上回る。12 歳虫歯 0.62 本と最も低い。体力テストの結果は全国的に高い水準を維持。

(3) 寄附報告

《山田学校教育課長が 2 件の寄附報告について報告》

(4) 共催・後援の教育長専決報告

《山田学校教育課長が 6 件の継続後援申請について報告》

4. 協議題

(1) 新規後援申請について

《山田学校教育課長が 1 件の新規共催事業及び 1 件の新規後援事業について説明》
審議の結果、全員異議なく承認された。

5. 議案

議案第 24 号 燕市小中学校校務支援システム選定委員会設置要綱の制定について

《山田学校教育課長が説明》

審議の結果、全員異議なく承認された。

議案第 25 号 燕市教育委員会教育長事務委任規程の一部改正について

議案第 26 号 燕市学校管理運営に関する規則の一部改正について

《山田学校教育課長が説明》

審議の結果、全員異議なく承認された。

議案第 27 号 燕市学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について

《山田学校教育課長が説明》

○委員（黒川 優子）

コーディネーターの方が 1 名の学校と複数の学校があるが、複数で活動されている学校は、それぞれ得意分野にわけて活動できるが、一人選任の学校はコーディネーターの負担が大きいと思われる。今後、複数配置の方向になっていくのか。

○学校教育課長（山田 公一）

昨年からコーディネーターの複数選任を認めているので、今後は複数配置の方向になると思われる。

○委員長（齋藤 和夫）

これは、学校の希望だけで実現するものなのか。それとも予算のからみがあるものなのか。

○学校教育課長（山田 公一）

予算のからみもあるので、全体の活動日数について、複数のコーディネーターの場合は調整させていただいている。

○委員（黒川 優子）

自校だけでは、人材的に不足するような場合、コーディネーター同士が連絡をとれるような体制はあるのか。

○学校教育課長（山田 公一）

コーディネーターの連携の会議は年に数回の研修会を実施している。中学校区ごとの研修も実施しているので、連携がとれていると考えている。

○委員（黒川 優子）

自分の学校だけで、人材が十分であれば良いが、他校より情報を聞きたい場合、連携が取れていないと、連絡が取れない。流れえをしっかりと作ってほしい。

審議の結果、全員異議なく承認された。

議案第 28 号 平成 26 年度燕市立幼稚園、こども園、小学校及び中学校における学校評議員の委嘱について

《山田学校教育課長が説明》

審議の結果、全員異議なく承認された。

そ の 他

- (1) 燕市男女共同参画推進委員会委員の委嘱について
- (2) 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会の出席について

《山田学校教育課長が説明》

7. 閉 会 午後 2 時 5 0 分

委員長 齋藤和夫

会議録署名委員

会議録調整者

【非公開】

全国学力・学習状況調査の結果の公表について

《尾崎指導主事が説明》

教育委員会からの全国学力学習状況調査の結果公表については、学校ごとの結果を公表することなく、昨年同様、市民への説明責任を果たすため、市全体の学力状況について公表する。

公表内容については、下記のとおり。

○平成 26 年度の結果

- ・平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果（燕市・全国・県の平均正答率の一覧）
- ・平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果より（燕市の状況、考察、今後の取り組み）
- ・平成 19 年度から 26 年度の全国学力・学習状況調査の経過
- ・全国・県平均正答率との差（平成 19 年度から 26 年度までの差）

○科年度の結果

- ・平成 19 年度から 25 年度までの燕市、全国、県平均正答率の一覧

○委員（中野 信男）

委員には、学校ごとの公表をするのか。

○教育長（上原 洋一）

昨年同様の取り扱いを検討しているので、公表予定である。

○委員（中野 信男）

平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差値の 4 つの区分ごとの結果がわるようにしてほしい。

○教育長（上原 洋一）

統計が取りやすい方向で検討したい。

昨年度、学校からの公表については、20校全校が保護者及び地域住民への説明責任を果たすため、積極的に公表した。その際、結果を十分に分析した上で、客観的なデータを示すまで、実態を的確に把握できるように工夫している。